

**タイ北部山岳民族のためのパイロットファーム建設
国際ボランティア貯金協力による同施設のフェンス設置事業 活動レポート**
(コーヒー基金の贈呈)

平成21年 5月12日

アイユーゴー ～途上国の人と共に～ 理事 加藤鐘三

国際ボランティア貯金協力による同施設のフェンス設置事業

この事業は、タイ北部メーホンソン県パーンマパー郡タムロード区に居住する少数民族に対し、2003年にパイロットファームを建設し、そこで有機栽培などの農業指導を通じて、農業知識の向上と自立した農耕生活の環境整備を行い、周辺の村人たちを含め経済的自立支援を進めてきました。今回はそのパイロットファームにおいて、野生動物などの被害から守る為に、国際ボランティア貯金のご協力によりフェンス設置事業を行うこととなりました。事業の詳細確認から完成後のモニタリングを含め三回に分けて現地に向う計画の中で、今回はその一回目として、現地担当者との詳細な仕様についての確認を目的として現地に行ってきました。

また昨年来多くの皆様にご協力を頂いた、コーヒー基金を、センターへお渡しすることと、今回スタディーツアーに参加頂いた河地さん、毛利さん、そしてマダガスカル事業の帰りに合流して頂いた新田代表と共に、村人との理解を深める様々な交流をしてみました。

現地の和田さんの協力

バンコクにてマダガスカル事業の帰りの新田代表と合流し、お出迎えの和田さん（現地アイユーゴー理事）と再会しました。タイ国内の政治的不安定な状況やインフルエンザの問題の中、比較的安心して現地に入ることができたのは、現地の状況を絶えず連絡して頂いた和田さんのご協力が大きいと思います。夕食をしながら、今回の事業の内容や、更には世界経済の状況などについて、興味深い意見交換が出来ました。

フェンス設置計画について

翌日は早朝より、スワンナブームからチェンマイへ、乗り継いでメーホンソンへ、更にそこから自動車です1時間30分にて村に入りました。村に向かう途中、最近二回続けてラオスへ行っていた私は、赤茶色した大地を何キロも続くガタガタ道に揺られながら移動するラオスのサワンナケートとの違いを感じながら、緑多い山の中を通り現地に向かいました。

パイロットファームに着いたのは午後の3時過ぎでした。

既に雨季を前にして忙しい時期



パイロットファームの施設



フェンス設置予定の農園

と思いますが、多くの村人から歓迎を受けました。その後センターを案内して頂き、今回のフェンス設置計画について詳細な説明を受けました。色々な質問を通じて、村人から今後のセンターに対する様々な思いについて、もっと引き出す予定でしたが、村人たちは、既にずっと先を見つめていることが伝わってきました。

周辺の村との協力関係の確認

農業支援センターの運営と周辺の村との協力関係は、今後、同センターを中心としたこの地域の経済的自立を進める上で、非常に重要なことです。今回、メーラーモン村（ノンカオ、ルツパコーの2村からなる34家族147名）を



左から、新田代表・村の代表・ソムヨツツさん訪問し、新たに同センターでコーヒーの栽培・管理・収穫などの指導について、協力する確認ができました。これでこの地域の全ての村と協力体制が整ったことを伺い、新たな決意を同席した皆が感じていたと思いました。そして早速にして、5月26日に農業指導の打ち合わせの予定が決められていました。

コーヒー基金の贈呈

昨年より多くの皆様にご協力を頂いたコーヒー基金を農業支援センターへ贈呈しました。この基金は、新しく協力関係と成ったメーラーモン村を含め、全ての村と同センターとの更なる協力関係に繋がり、この地域の経済的自立に結び付くことと思います。この地域全ての村で、コーヒーの苗木が植えられ、数年後には収穫の時期を迎えることと成るでしょう。



コーヒー基金の贈呈と協力者の名簿



2002年建設した図書館の視察

農業支援センターの隣村には、王立の全寮制の中小中学校があり、その中に2002年に青年会議所（JC）東海地区メンバーとの共同プロジェクトにて建設した図書館があり、視察してきました。

当時そのプロジェクトに参加した私は、この図書館には特別な思いがあり、館内に多くの図書があり、多くの利用者があることに対し本当に嬉しく思いました。更に当時は図書館以外には何もなかった場所に、全寮制の学校や技術支援施設などが隣接し、まるで学園都市を思わせるように変



右・図書館 左・学校施設

貌していることに対し驚きや喜びを感じました。今後、農業支援センターと、学校との協力関係（例えば学校での給食など）が構築できれば、同センターの活性化と地域自立に大きく繋がることに成ると思います。

村人との交流

今回スタディーツアーとして参加して頂いた河地さん、毛利さんが中心と成って、自己紹介を兼ねた「私の仕事」を写真で紹介し、その後に、不思議な錯覚図形、バルーンアートや複数回線の糸電話に挑戦しました。村人と一緒になって楽しい時間を共有できました。



村人との交流風景



図形の錯覚



バルーンアートに挑戦



複数回線の糸電話に挑戦



絵本の贈呈



メーラーモンの村人との協力

夕食は、以前 JICA にて活動していたプークさんと共に、様々なお話をしながら楽しい時間を過ごしました。懇親の最後に、農業センター長のソムヨツツさんが、突然姿勢を正し、「皆の気持ちを確かに受け取りました。センター長として一生懸命に働きます。」と宣言され、同席している私たちは、彼に対し心から拍手を送りました。

今回の事業に参加して、

2002年以來、約7年ぶりにタイ北部の現地へ行くこととなり、先に書いた通りラオスと比べ、この地域が比較的恵まれていることに対し、ある意味戸惑いを感じました。自分では未だ十分な結論は見出せませんが、より高いレベルでのきめの細かな協力関係が、**センター長のソムヨツツさん** 今後求められることとなると思います。更に現地の物質的な豊かさの追求を通して、様々な経験を重ねることで、現地の村人も今



は支援する立場の私たちも、将来的には同じ立場で、共に成長できるパートナーと成ることが最終的な目的と成ることと思います。今を共に生きる人として、共に成長することが何よりも大切なことと思います。

今回事業を通じて、新田代表や現地の和田さん、センター長のソムヨツツさん、ご家族や村人、そして共に活動して頂いた河地さん、毛利さんから、様々なご協力を頂きました。また、コーヒー基金に対して、多くの方から暖かいご協力を頂くことが出来ました。皆さま一人ひとりに対し心から感謝いたします。



アイユーゴーではタイ、ラオス、ベトナム、マダガスカル等にて、協力を必要としている人たちの自立支援を行っています。多くの人たちのご協力を必要としています。また、現地へのワークキャンプやスタディーツアーも企画しています。是非一度、ホームページをご覧ください。
 ホームページ：<http://aiyugo.fc2web.com>
 メールアドレス：snitaskmj0715@yahoo.co.jp